

重症児の在宅支援を担う医師等養成コース

授業科目表

シラバス

大阪公立大学 重症児の在宅支援を担う医師等養成コース

研 究 科：医学研究科

専 攻：臨床医科学

科目区分	授業科目	配当年次	単位数
専門教育科目	(必修)小児在宅医療	1～2	8
	(必修)小児在宅医療実習	1～2	4
	発表表現演習	3～4	2
セミナー 研究指導科目	(必修)小児在宅医療セミナー	1～2	2
	(必修)研究指導	1～4	8
共通教育科目	(必修) 医学研究概論	1	1
	(必修) 医学研究基本演習	1	1
	(必修) 医学研究セミナー	1～2	1
大学院共通教育科目	(必修) 研究公正B	1	1
専門教育科目	(※) 関連のある専門教育科目		

1. (※) について、基礎医科学専攻及び臨床医科学専攻（がん専門医療人養成コース及び医療統計コースを含む）の授業科目のうち、関連のある専門教育科目から授業科目を選択し、その単位を修得すること。
2. 課程修了に必要な単位数：30単位以上。
3. 学位論文の提出は、本学大学院医学研究科の規定に準ずる。

授業名称		担当教員氏名	
(和) 小児在宅医療 (英) Pediatric Home Medical Care		新宅治夫、濱崎考史、余谷暢之	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態（講義、演習、 実験・実習の別）
8 単位	1～2 通	必修	講義

授業概要
重症児の在宅支援に関わるための能力を育成するために、重症児の評価、病院から在宅移行への流れ、在宅移行後の各職種の役割、制度について各専門家による講義を行う。
到達目標
小児在宅医療について退院から地域での生活までを横軸でとらえることができる。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	在宅重症児総論 1	
第2回	在宅重症児総論 2	
第3回	在宅重症児総論 3	
第4回	在宅重症児の見方 1	
第5回	在宅重症児の見方 2	
第6回	病院から在宅移行の実際 1	
第7回	病院から在宅移行の実際 2	
第8回	療育センターの役割と実際 1	
第9回	療育センターの役割と実際 2	
第10回	訪問診療と往診の実際 1	
第11回	訪問診療と往診の実際 2	
第12回	訪問看護の役割 1	
第13回	訪問看護の役割 2	
第14回	学校における在宅支援 1	
第15回	学校における在宅支援 2	
第16回	緩和医療とアドバンス・プランニング 1	
第17回	緩和医療とアドバンス・プランニング 2	

第18回	重症児診療における倫理的課題 1	
第19回	重症児診療における倫理的課題 2	
第20回	リハビリテーションの実際 1	
第21回	リハビリテーションの実際 2	
第22回	ご遺族の視点から 1	
第23回	ご遺族の視点から 2	
第24回	相談支援事業 1	
第25回	相談支援事業 2	
第26回	小児在宅医療における行政の役割 1	
第27回	小児在宅医療における行政の役割 2	
第28～31回	在宅移行の実践・グループワーク	

成績評価方法
内容の理解度について前後アンケート及びテストにて評価する(試験 60%、小テスト 40%)。 小児在宅医療について退院から地域での生活までを横軸でとらえることができるかが、合格のための基準となる。
履修上の注意
連携大学院(秋田、山形、鳥取)の講義も受講可能
教科書
必要なレジュメ、スライドなどは moodle を通じて提供する。
参考文献
特になし

授業名称		担当教員氏名	
(和) 小児在宅医療実習 (英) Pediatric Home Medical Care		新宅治夫、濱崎考史、余谷暢之	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態（講義、演習、 実験・実習の別）
4 単位	1～2 通	必修	演習

授業概要
重症児の在宅支援に関わるための能力を育成するために、重症児が利用する施設に行き、現状について学ぶ機会を得る。
到達目標
在宅重症児が利用する施設の実際を体験し、在宅に必要なサービスについて知識を得、経験を積む。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第 1～5 回	療育施設	該当する講義レジュメを予習・復習
第 6～11 回	訪問診療	同上
第 12～16 回	訪問看護ステーション	同上
第 17～21 回	ホスピス	同上
第 22～26 回	ボランティア活動など	同上
第 27～31 回	その他在宅重症児がかかわる施設	同上

成績評価方法
内容の理解度について前後アンケート及びテストにて評価する(試験 60%、小テスト 40%)。 小児在宅医療について退院から地域での生活までを横軸でとらえることができるかが、合格のための基準となる。
履修上の注意
施設についてはこちらで準備するが、希望があれば希望の施設に行くことも可
教科書
必要なレジュメ、スライドなどは moodle を通じて提供する。
参考文献
特になし

授業名称		担当教員氏名	
(和) 小児在宅医療セミナー (英) Seminar of Pediatric Home Medical Care		新宅治夫、濱崎考史、余谷暢之	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態(講義、演習、 実験・実習の別)
2 単位	1～2 通	必修	講義

授業概要
小児在宅医療セミナーは、小児在宅における現状と課題、最新の情報など多面的に小児在宅をとらえる力を要請する。
到達目標
小児在宅の現状と課題を理解し、解決する能力を身に付ける。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第 1～5 回	小児在宅医療研修会	該当する講義レジュメを予習・復習
第 6～11 回	小児在宅医療に関する人材養成講習会	同上
第 12～16 回	小児在宅医療支援研究会	同上
第 17～21 回	小児在宅医療地域コア人材養成講習会	同上
第 22～26 回	在宅療養支援診療所からみた小児在宅医療	同上
第 27～31 回	その他、小児在宅医療にかかわる講習会、講演会	同上

成績評価方法
内容の理解度についてレポートにて評価する。 合格のための最低基準としては小児在宅の現状と課題を理解し、解決する能力を身につけていることを基準とする。
履修上の注意
施設についてはこちらで準備するが、希望があれば希望の施設に行くことも可
教科書
必要なレジュメ、スライドなどは moodle を通じて提供する。
参考文献
特になし

授業名称		担当教員氏名	
(和) 発表表現演習 (重症児コース) (英) Exercise in Presentation		新宅治夫、濱崎考史、余谷暢之	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態 (講義、演習、 実験・実習の別)
2 単位	3～4 通	必修	演習

授業概要
重症児の在宅支援に関わる学会発表や論文発表を単位と認め、学会発表に際して予行を行い、口頭発表やポスター発表の方法論を学び、論文として発表する方法を学ぶ。
到達目標
重症児の在宅支援を学術的にとらえ、解析しその研究成果を自らまとめて、発表し論文化できる。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第 1～5 回	事前準備	該当する講義レジュメを予習・復習
第 6～11 回	予演会	同上
第 12～16 回	講演会	同上
第 17～21 回	学会発表	同上
第 22～26 回	論文作成	同上
第 27～31 回	論文投稿・査読	同上

成績評価方法
内容の理解度・プレゼンテーションの技術で評価する。発表および質疑応答の内容で評価する。
履修上の注意
事前学習として、各専門の基本的知識を確認してから参加すること。事後学習として、発表での質疑応答で取り上げられた問題点についてまとめ、報告書を作成する。
教科書
必要なレジュメ、スライドなどは moodle を通じて提供する。
参考文献
特になし

授業名称		担当教員氏名	
(和) 研究指導 (重症児コース) (英) Advanced Course of Medical Research		新宅治夫、濱崎考史、余谷暢之	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態 (講義、演習、 実験・実習の別)
8 単位	1～4 通	必修	演習

授業概要
重症児の在宅支援に関わる医療的・社会的資源を理解し、現状の問題点を学術的に解析することで、解決策を立案し、学際領域を発展させて患者中心の医療を推進して、21世紀における都市型大学として期待される人材を育成するように研究指導を行う。
到達目標
重症児の在宅支援を学術的にとらえ、問題解決のための立案ができる。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1～5回	事前準備	該当する講義レジュメを予習・復習
第6～11回	予演会	同上
第12～16回	講演会	同上
第17～21回	学会発表	同上
第22～26回	論文作成	同上
第27～31回	論文投稿・査読	同上

成績評価方法
カンファレンスにおいて内容の理解度・プレゼンテーションの技術を評価する。さらにその発表および質疑応答の内容を評価する。
履修上の注意
学習内容を理解するため、各一定の時間 (最低1時間程度) の予習、復習をすることが望ましい。
教科書
必要なレジュメ、スライドなどは moodle を通じて提供する。
参考文献
特になし